

いました。きょねん病気をしたので体の事を考える
とふあんになってつらい事もありました。

1日も早く社会ふつきできるようにがんばりま
す。

会員向け勉強会に参加して

東成育成園支部 中島 由紀子

1月の勉強会は「災害に対する心構え～阪神・淡
路大震災20年を前にして～」をテーマに、神戸市
手をつなぐ育成会より副会長の伊藤様と須磨支部
の三木様にお越し頂き、震災の体験談と防災の意識
を高める為のお話を伺いました。

平成7年(1995年)1月17日5時46分に
起こった震度7の都市直下型地震は東灘区・灘区・
長田区に甚大な被害をもたらしました。初めに参加
者全員で6,434人の犠牲者を悼み黙とうを捧げ
ました。

まず、伊藤様より当時の神戸の様子と神戸市育成
会での対応状況についてお話しがありました。

神戸市育成会では、震災後すぐに比較的被害の少
なかつた北区で会議を開き、役員が33か所の避難
所を回って会員の安否を確かめたとお聞きしまし
た。その後、DVDを見せて頂きましたが、建物の
倒壊と火災の映像はすさまじく、給水車に長蛇の列
を作って並ぶ姿が映し出されていました。電気の復
旧は早かったそうですが水道・ガスは長くかかり、
水を確保するのに大変苦労されたそうです。(水道
が復旧したのは3か月後ということでした。)

次に三木様からはご自身の体験についてお話し
いただきました。

三木様のご自宅は木造で震災当時19年が経過
しており半壊とのことでした。ご近所の人と協力し
て埋まっている人を助けたそうです。「人を救うの
は人です。自助・共助(地域住民が助け合う)の力
で、対策本部が立ち上がるまで生き抜かなければな
りません。待っていれば行政(公助)が何とかして
くれると考えるのは間違いで、自分で自分を助ける
対応力をつけておくこと、障がいの子供も多少の我
慢ができて、いざという時に走って逃げられるよう
にしておくことが大切」と話されました。

その後の研究で約400年前の1596年に慶
長伏見地震という大地震があり、京阪神に大きな
被害を与えていたことがわかりました。昔あった災
害は必ず繰り返されるので、私達は30年以内に起

こると言われている南海トラフ大地震に対しても
心づもりが必要です。家の中では小さいスペースで、
柱がしっかりしている玄関やトイレが安全だそう
です。古い家屋にお住まいの方は耐震補強工事をす
ることで倒壊のリスクを軽減することができ、頑丈
な柱を建てて安価で一室を避難シェルターのよう
にすることもできるそうです。

参加者から避難所で障がいの子が嫌がられるの
では?と質問があり、「最初に周囲に子供を紹介・
挨拶をして、1人ずつ味方を増やしていくことで受
け入れられる」とおっしゃいました。

普段はつい薄れがちな防災意識ですが、公的な支
援が行き渡るまでに家族の生命、健康を維持するた
めに危機感を忘れず、いざという時に役立つ知識を
身に付けて災害に備えたいと思います。



バレンタインコンサートに参加して

ハーモニー 国友 豊治

2月8日(日)に天満橋のドーンセンターで楽し
みにしていたバレンタインコンサートに参加させ
て頂きました。

会場の期待がふくらむ中で幕が上がり、第1部の
ミセス・グレース田中恵子さんによるピアノコンサ
ートの始まりです。軽やかなピアノの音色に楽しい
トークを交えて、情緒あふれる曲や親しみやすい曲
を演奏して頂き、会場全体が暖かな雰囲気になら
れました。「しあわせはこべるように」と「ふるさと」
を演奏される際に、仙台市手をつなぐ育成会の依頼
で被災地でのコンサートを開催されている事もお
話し頂きました。実際に被災地に行かれた田中さん
のお話をお聞きした後だったので、この2曲はより
メッセージ性のあるものとして聴く事が出来た様
に思います。ディズニーメドレーの際には、ダンサー
の方も登場し、そのコミカルな動きに会場はより
一層盛り上がりました。ダンサーの方の登場は今年
が初めてと言うことだったので、来年以降もぜひ楽